

# 通過から、滞在へ

—地域性を内包する湘南のアトリウム提案—

## I. 計画の背景 / 暮らしと観光が交差する駅前の現状

神奈川県藤沢市は東京から電車で約50分の位置にあり、江ノ島や湘南海岸を望む自然環境と都市の利便性が共存する、暮らしと観光がゆるやかに混ざり合うまちである。しかし藤沢駅南口は湘南の海や江ノ島へ向かう人々が行き交う“湘南の玄関口”でありながら、駅前空間や商業施設は通過動線としての性格が強く、地域とのつながりや滞在の場が乏しい現状にある。また、近年の商業

施設は『モノ消費』から体験や時間を重視する、『コト消費』へと価値が移りつつあり、地域との関係性をどう築くのが新たな課題となっている。本計画ではこうした背景を踏まえ、藤沢駅南口の中でも江ノ電改札口を内包する象徴的な拠点である、小田急湘南ゲートをリノベーションし、地域と人が交わり、湘南らしい滞在と交流が生まれる新たな公共空間の再生を行う。

## II. 計画敷地

### 小田急湘南ゲート

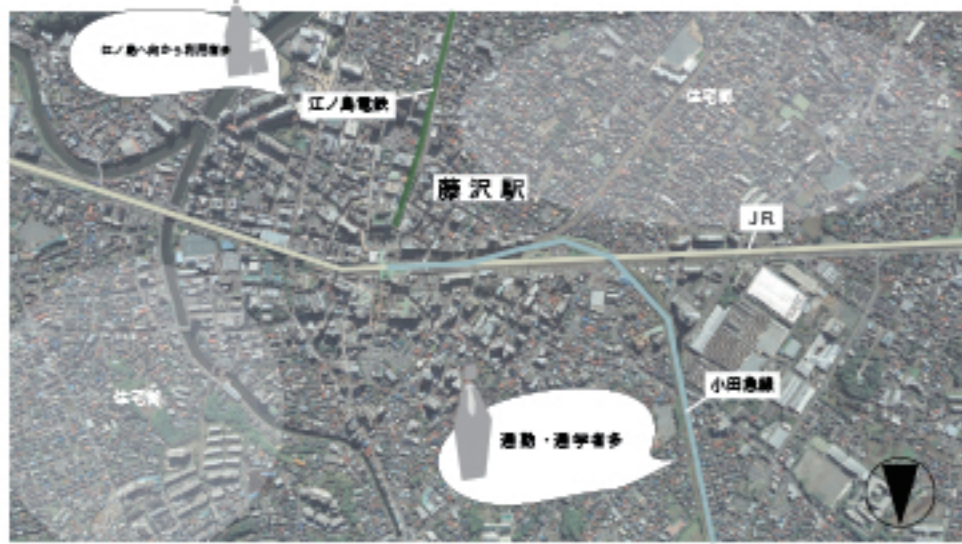
住所：神奈川県 藤沢市 南藤沢2-1-1  
竣工年：1974年（昭和49年）  
店舗面積：12,641㎡  
構造：鉄筋コンクリート造  
地下1階 / 地上7階

藤沢駅南口に位置し、江ノ電改札を内部に抱え込む駅直結の商業施設百貨店や専門店に加え、6階には市民図書館もある



## III. 現状・課題

### 1. 地域的課題 / 藤沢駅周辺

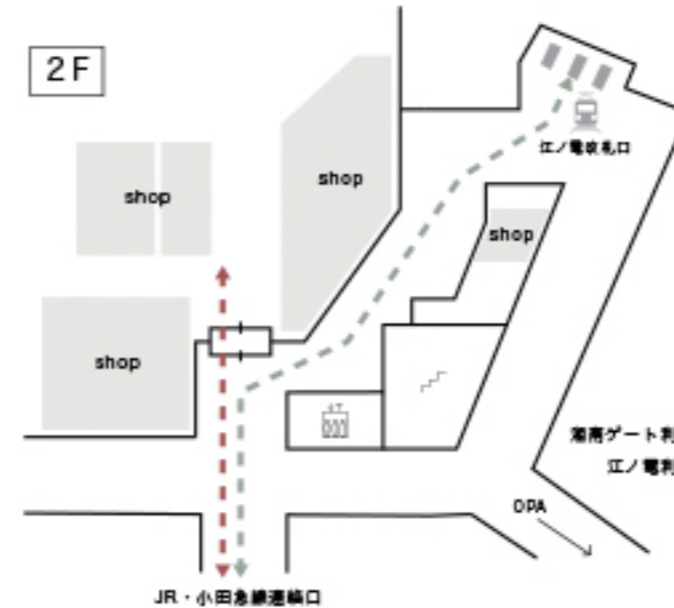


3路線が交差する交差点  
通勤・通学・観光という異なる目的の人の流れが重なり合う場所

### 2. 施設の課題 / 小田急湘南ゲート



北側ファサードにより、自然光が入りにくく、駅前との閉塞感がある



江ノ電利用者と湘南ゲート利用者の動線が分断されている  
街との視線や人の流れの連続性が弱い

### プランによる改善ポイント

通過から滞在へ	分断された動線の再編
光環境の改善と閉塞感の解消	地域性の内包

## IV. CONCEPT

### 湘南の風景を内包する

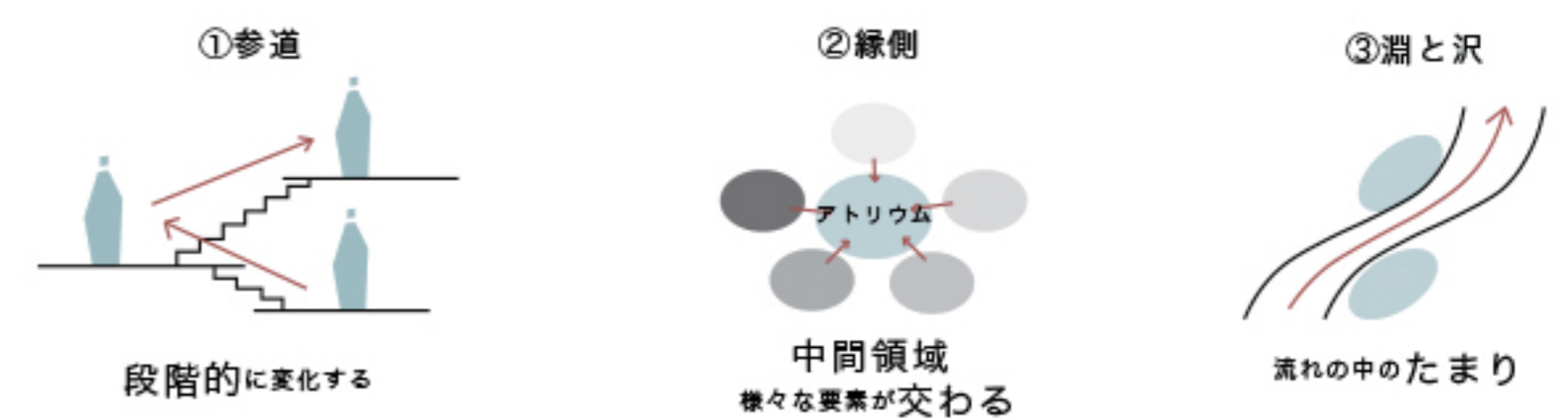
藤沢駅南口において、人の流れが交差してきた小田急湘南ゲートに、光・余白・時間の重なりを加え、湘南らしい居場所性を内包する

藤沢という地名の由来ともされる

### 計画ポイント

- ① 参道：風景として体験する動線 / 連続する上下動線
- ② 縁側：中間領域 / 余白の空間
- ③ 淵と沢：通過と滞在が交錯する空間構成

## VI. DIAGRAM



## VII. アトリウム断面

縮尺 1/250

### アトリウム計画

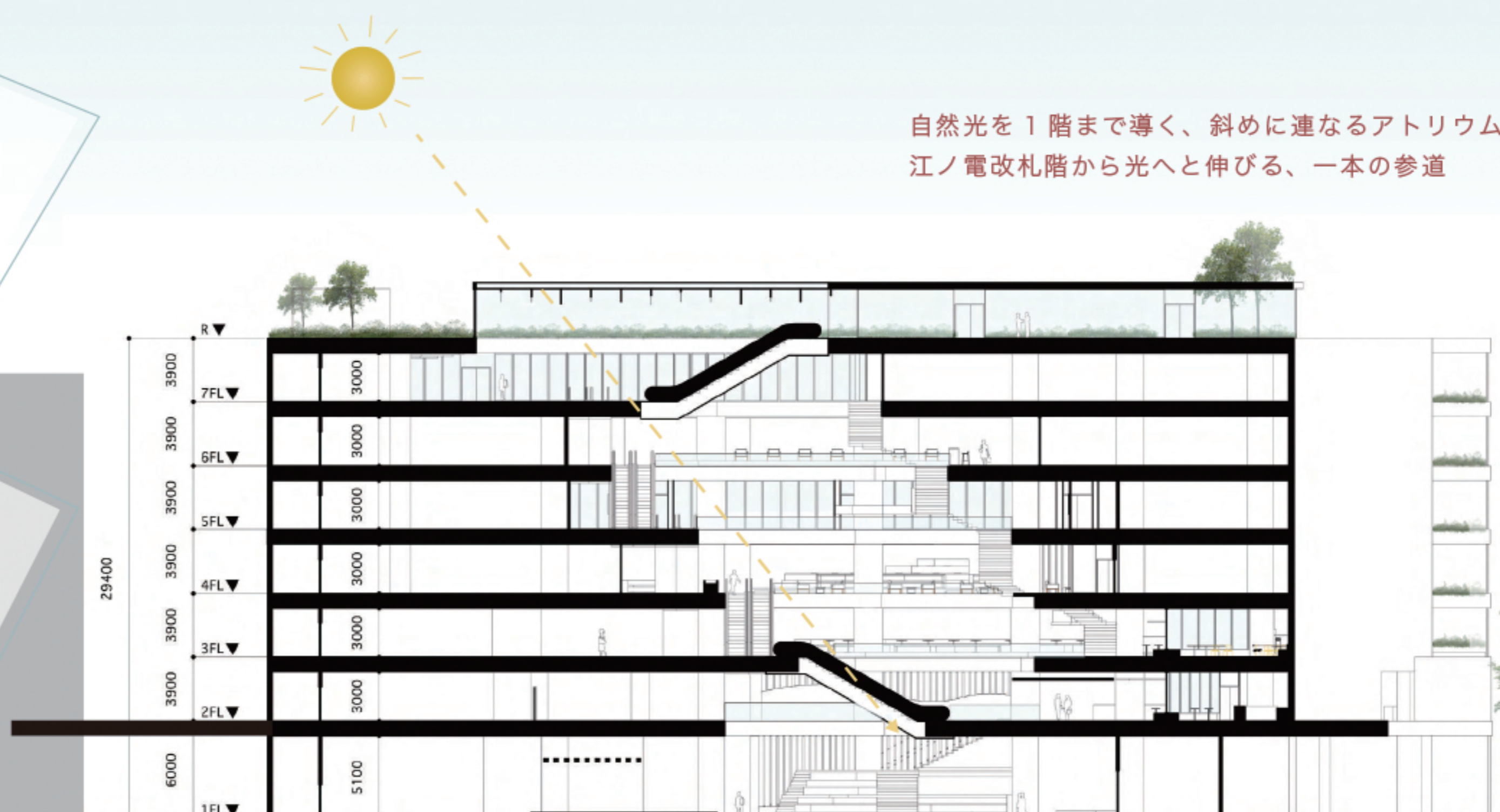


1階から7階まで貫く新たな吹き抜け  
上階へ行くほど斜めにずらすことで、自然光を段階的に導く

### エスカレーター動線と階段動線

流れに身を任せて、自然に上階へ導かれる

立ち止まり、眺め、滞在できる“寄り道の動線”



自然光を1階まで導く、斜めに連なるアトリウム構成  
江ノ電改札階から光へと伸びる、一本の参道